



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

慢性腎臓病（CKD） について

自覚症状に乏しいまま進行する慢性腎臓病（CKD）は、就業や子育てによる過労や、高齢者に多い糖尿病や高血圧が引き金となっておこる、老いも若きもかかる新たな国民病といわれています。

腰部に左右一対ある腎臓は、主に五つの役割があり、血液中の老廃物を尿として体外に排出、血圧の調節、血液を作るホルモンの分泌、ミネラルの調整、強い骨を作る、といった役割があります。その腎臓機能が六割以下に低下するか、タンパク尿がでるといった症状が、いずれも三カ月以上続く状態を慢性腎臓病といいます。生活習慣病やメタボリックシンドロームが危険因子としてあり、症状が進むと、薬物治療で元の状態に戻ると、薬物治療で元の状態に戻り、脳卒中や心筋梗塞、狭心症のリスクが増

加します。重症化すると、人工透析をしなくてはならなくなります。

そのため、定期的な健康診断による早期発見が大切となります。夜間尿、むくみ、貧血、倦怠感、息切れといった症状がある人は、進行している可能性があるので、早急な検査が必要です。検査としては、尿検査や血液検査があり、タンパク尿がどうかや、血液中の老廃物である血清クレアチニンの量が増加しているかどうかを調べます。腎臓能がどの程度残っているかという指標となるのが、推算糸球体ろ過量（eGFR）であり、血清クレアチニン値と年齢と性別から求めることができます。検査の結果、慢性腎臓病と診断された場合、進行を遅らせたり、腎臓能低下による種々の症状を改善したりする薬物療法をします。主には、老廃物を体から追い出す経口吸着炭素製剤、血圧を調節する降圧薬や利尿薬、血液を作るホルモン（エリスロポエチン）、ミネラルを調整するカリウムやリンの吸

着薬、強い骨を作るビタミンD製剤などがあります。薬物治療以外に、病を悪化させないためにはバランスのよい食事を心がけ、肥満に注意し、喫煙者は禁煙し、タンパク質や塩分をひかえ、場合によっては、カリウムやリン、水分の制限も必要になります。

初めにも書いたように、初期には自覚症状がほとんどないことが、この疾患の怖いところで、自覚症状がでた頃にはかなり進行していて、自然に治ることはありません。放置すればどんどん進行して、取り返しのつかない恐れがあります。そうならないためにも、検査をしっかり受け、早期発見に努めるとともに、規則正しい生活を心がけたいものです。

（長田区 ふれあい薬局長田

浅田 圭一）

